

様式 2

- | | | |
|---|-----------|---|
| 1 | 審議会名 | 平成 30 年度 第 3 回安曇野市子ども・子育て会議 |
| 2 | 日 時 | 平成 31 年 2 月 27 日(水) 午後 2 時から午後 4 時まで |
| 3 | 会 場 | 安曇野市役所 共用会議室 307 |
| 4 | 出席者 | 犬飼委員、依田委員、後藤委員、宮下委員、赤堀委員、大澤委員、丸山(広)委員、
武井委員、木下委員、水谷委員、丸山(屹)委員、三好委員、依田委員、大倉委員 |
| 5 | 市側出席者 | 花村部長、山口社会教育担当係長、一色学校指導室指導主事、櫻井学校教育係長、
渡邊健康支援担当係長、上条健康推進担当係長、
鳥羽子ども支援課長、塚原子ども支援課長補佐、黒岩保育担当係長、丸山係長、 |
| 6 | 公開・非公開の別 | 公開 |
| 7 | 傍聴人 | 0 人 記者 3 人 |
| 8 | 会議概要作成年月日 | 平成 31 年 3 月 11 日 |

協 議 事 項 等

I 会議の概要

- 1 開 会
- 2 会長あいさつ
- 3 会議事項

- (1) 地域型保育事業の認可及び確認について
- (2) 第 2 次安曇野市子ども・子育て支援事業計画策定方針及びスケジュール等について
- (3) ニーズ調査実施結果の状況について
- (4) その他

- 4 閉 会
-

II 協議概要

- 1 開 会

【副会長】

ただいまから、第 3 回安曇野市子ども・子育て会議を開催します。

- 2 会長あいさつ

【副会長】

犬飼会長よろしく申し上げます。

【会 長】

皆さんこんにちは。前回会議の際に、皆さんに検討していただいたアンケートですが、かなりの高い確率で回収が出来たようでして、安曇野市の子育て関係の会議に皆さんが期待を寄せていたり、あるいは関心の高かったりということがうかがわれるのかなと思います。これをまた、次年度以降の計画の中にどう取り込んでいくのかという事を含めて、今日は皆さん方のご意見をお聞きしながら会議を進めていきたいと思ひます。どうぞよろしくお願ひいたします。

3 会議事項

【副会長】

それでは、早速会議事項に移らせていただきます。なお、会議開催に先駆けまして次の事項に関しまして事前のお願いとなります。本会議は公開で行います。会議概要等議事録を作成すること及び傍聴者のあることをあらかじめご了解いただきますようお願いいたします。では、以降の議事進行については、犬飼会長をお願いいたします。

(1) 地域型保育事業の認可及び確認について

資料1

【会 長】

それでは、お手元の会議次第に沿って進行させていただきます。まず、会議事項（1）について、事務局より説明をお願いします。

【事務局】

資料1に基づき説明。

【会 長】

はい、ありがとうございます。市の未満児さんの待機児童がある中、小規模こども園が出来たということで、2園追加ということで、みなさんからご意見ありましたらお願いしたいと思いますが、いかがでしょうか。

【A委員】

保育士さんの人数というのは、載ってないのですけれど、何人いるか分かりますか。

【事務局】

人数はもちろん、利用定員に応じた配置基準というのがあって、そこについては満たしていると確認はとれます。資料が手元にないので、申し上げることは出来ませんが、必要な保育士の人数は確保されているということは、確認はしているということです。

【会 長】

よろしいでしょうか。公募の段階で、事業者について選定をして、それで確認のうえということでした。

(2) 第2次安曇野市子ども・子育て支援事業計画策定方針及びスケジュール等について

資料2-1、資料2-2

【事務局】

資料2-1に基づき説明。

【会 長】

ありがとうございました。2020年度以降、5ヶ年にあたる計画について4月から怒涛の如く色々な会議がスタートするようです。議員の皆様にも5回を予定とした会議が開催予定されていますけれど、ご協力をよろしくお願ひしたいと思います。

では、続きまして資料2-2の資料についてのご説明を続いてお願ひしたいと思います。よろしくお願ひします。

【事務局】

資料2-2に基づき説明。

【会 長】

ありがとうございます。たくさんデータと資料をご用意していただきましたが、あらかじめ配布されている資料ですのでみなさんご覧いただいて、それぞれ感じておられるかと思います。ここまでのご説明について何かご意見・質問等ありましたらよろしくお願ひします。

【B委員】

今、子ども・子育てに関して大変大きな問題があります。大きな虐待事件が、日常的に起きている。しかも、虐待に関する件数があまりにも増加している。安曇野市でも増加の傾向にある。そんな中で、あそこまで至るような虐待は大変なことで、子どもの命、人権に関わるような事件ですごくショックだし、信頼がない。安曇野市においては、絶対にああいう事件が起きてはならない。絶対に、起こしてはいけない。そのためにどうするかということを、先ほど少し触れて頂いたのですけれども、子ども支援課と学校教育課や他の関係機関との連携をきちっとしてほしい。そういうことを熱く語っていかなければいけないのかなと、思うのですが。

もう一つ、就学児童につきましては、最近話題になっているのですが、スマホの問題。スマホの扱い。スマホを学校の中に持ち込んでも良い、ということで、スマホによるいじめ。それから、自殺。そういうような事件が、後を絶たない。スマホの扱いは学校に任している。市としてどういう構えでやっていくか、考えていかないと、これはもう時間がないと思うんですよ。子どもはもう持っていますからね。子ども・子育てには大きな課題になっている。命に関わることなので、第三者がみて分かるような、内容で次回の冊子には載せて頂いたらと思うのですけれど。

【会 長】

はい、ありがとうございます。何かあれば。

【事務局】

そうですね、そのお話が出たように、児童虐待なりスマホの事について、どれだけこの場で話題になったかという経緯、本当に今までやってはいるのですけれど、今後さらにそこを関係官庁と連携したり、強化を図るということで、計画に載せる等考えていきます。

【B委員】

だけど、端から出来ていないんですよ。見えないの。連携というけれども、一般市民が見えるかたちでこういうことをやっているのかなあと。例えば、虐待があれば、すぐ通報するというのは分かっているのだけれど、具体的にはなかなか。私の身近の案件でもあるのですが、その動きが鈍い。そういうところが、いまいち、頭では分かっているけどどこにも載っていない。色々ありすぎて。実情とか、行政関係とか、連携とか関係機関を含めて、まだ軸がしっかりしていない。だから見相もあれだけ対応遅れているということも、信じられないじゃないですか。そういう意味で、市では見えるかたちにしてほしい。

【会 長】

ありがとうございます。世帯数が増えて一世帯あたりの人口が減っているということは、地域で孤立化していく家庭があるという傾向に進んでいるのかなあとと思います。今の色々な問題が、地域の人達の日に見えないところで生じる可能性が増えるのかなあと懸念があるわけですが、安曇野市の横の連携でそんなものを見える化していくということを是非お願ひしたいという提案だったと思います。ありがとうございます。

他はいかがでしょうか。問題は山積なのですけれども、集まってきた様々なデータを本当に、どんな新施策を行っていくかと、4月以降の会議の時にご意見をたくさんいただければと思います。

(3) ニーズ調査実施結果の状況について **資料3-1**、**資料3-2**

【会 長】

続いて(3)ニーズ調査実施結果の状況について、**資料3-1**昨年末、未就学児1,600名、就学児1,000名にニーズ調査を実施していただきました。その結果報告等について市から説明をお願いいたします。

【事務局】

資料3-1 **資料3-2** に基づき説明。

【会 長】

はい、ありがとうございます。たくさんの項目について、項目を絞ってご説明頂きました。80%越えという有効回答率なのですけれども、たくさんの項目に80%を超える方たちが回答して下さったという事を考えても、未満児さん、未就園児をおもちのご家庭の関心の大きさというのがはかり知れますけれども、これまでの資料説明等の中で、あるいは直接の回答する立場だった方の意見でもいいのかと思えますが、なにかありましたら。

【C委員】

アンケート結果を自宅で見ている、今説明を受けて、分析する人によってこんなにも違う印象というか、私が必要だなと思っていることと、今お話しされたことがだいぶ違うなあと。分析する立場、支援課の方が分析するのと保育関係者が分析するのではだいぶ違うのではないかなという印象を受けました。

例えば、習い事をしたいとか、保育園のところで教育的なものをもう少し入れてもらいたいという項目があって、それを見たときに今後こういうところを保育園の事業として付け加えたいと思うんだと。そうじゃなくて、なぜ親がそういう項目を必要としているのだろうかとか原因を考えたらいいのになあと。思ったんです。確かにたくさん項目があって、必要な所を全部マルしていいですよと言われたら、結構マルすると思うんですよね。一つだけにしぼってくださいと言われたら考えますけれど、結構マルをしてしまうけれど、でも本当にそれを市にやってほしいかという、違うんだよなと思うところもあって。

もう一つは、この話に入る前に、虐待とスマホの事をもう少しという話がありましたけれども、市が何かを取り組むというのは、散乱していますし、なぜと考えた時に、なぜそういう環境になってしまったのか、なぜ虐待をしたくなるのか。

私も今4人目が3カ月で、預けてきましたけれど、確かに体もへトへトだし結構いっぱい、いっぱいなんですよ。だから、一人目のお母さんが虐待したくなる気持ちは重々分かる。でも、4人目という気持ちの余裕と、あと、年齢が44になりますから地域の人や隣の人との関係も築けるし。

例えば今日託児をお願い出来ましたけれども、出来なかつたら隣の人に預けていこうぐらいの気持ちもあります。以前、産婦人科に行ったときにすごくびっくりしたのが、最初の子が13年前だったのですけれど、その時と明らかに違ったのが、信大だったのですが、出産して次の日から4人の病棟に入りますよね。昔は全部カーテン開いていました。看護婦さんも、全部開けて「お母さんたち交流してください」と言っていたんですよね。

でも今は、完全に全部が締め切られていて、お母さんは何しているかという、スマホで検索するんですよ。こういう時は泣いちゃった、こういう時はどうしたらいいのかなって、スマホで検索するんですよ。今までだったら、1人目のお母さんがあつたふたしていたら、「それ大丈夫だよ、ほっといて」と言えたんだけど、カーテン締め切っていて、スマホの世界があるから会話をしようとも思わないし、誰か一言言ってあげればと思って「大丈夫?」と声をかけました。

傾向として、10年前まではなかったスマホが現れたことで、本当に孤立化しやすい、子どもだけでは

なくて母親も、全てが。今まで育児書だったのが、今はスマホ、パソコンだし、あれだけ情報があるから批判できない。商業的にテレビとかでガンガン言われてしまうと、そっちがいいのかなと思わざるを得ない。戦略でしようけど、そういうお母さん達をどうやって、踏み止めるかというのは、やっぱり人だと思っんですよね。

コミュニケーション取るしかなくて、いくら冊子をいっぱい作りましょうとか、そういうことじゃないし、キッズパークを利用していない人が56, 7パーセントは少しびっくりしたというか、焦って。キッズパークは3人目で使いましたが、キッズパークに来ているお母さんは安心だと思います。キッズパークに来ていないお母さん達が一番危険だなあと思っんです。そこのお母さん達をどうやって、ひろっていくかなんだろうなとすごく思いました。

中学1年生になる長女にスマホでなくて、ガラケーを与えていますけれども、その勇気を母親は持たないといけないし、父も母もガラケーにしなくては、子どももスマホをほしがると思いますけれど、その辺が自分達の対応というか、子ども達でなく大人が見本を見せないと、多分子供たちも欲しがるし、若いお母さんたちも楽だからというところがあるからだろうなとすごく思いました。

まとめませんけれども、保育関係者とか保育を専門、子どもをみている方の目線でもう一回分析をして、何と何が今求められているかというのをもう一回分析をして、しっかりしての計画書作りになったらと思います。

【会 長】

はい、ありがとうございます。実感を交えてのご意見でしたけれども、いかがでしょうか。

【D委員】

私も同じようなことを思いました。[資料3-1](#)11 ページの間20-5というところですけど、さらに充実させてほしいサービスのところで、語学学習、体操教室などのプログラムの導入に力を注ぐというお話だったのですが、これはそうではないと。保育園・幼稚園、こども園はこういった事をするところではありません。一部、私立の園がされているのは、それはそれで特徴としていいと思うのですが、公立の園の枠は違うかなと思います。

それから、このアンケート自体が、子ども・子育て支援のアンケートというよりも、どちらかという働くための支援のアンケートになっているのではないかと思います。出来れば、仕事よりも子育ての方を充実させていきたいというのが当然なのですが、実際問題そうはいかないというところは、重々分かりますが…。

是非例えば、家庭での子どもの接し方ですとか、子育てにくさを感じている親への、保護者の方がどう思っているとか、子育てのアンケートというのも必要なのではないかなと。家庭の環境によって、園の子ども、それから小学校へ入学してくる子ども、様々な子どもたち。家庭でのところで、子ども達の力が、発揮出来ているのかなあと感じるところがありますので、家庭での支援という立場で、実際子どもを育てている方々に聞いてみるというのは必要なあ、そんなふうに感想ですが思いました。以上です。

【会 長】

ありがとうございます。このデータを、これから分析をしていただくわけですがけれども、数字で出てきますよね。その数字を見て、安曇野市としてどんなふうにかこれからの施策を考えていくかということだと思います。女性の就労問題をからめて、子どもの最善の利益というようなバランスをとっていくのは真逆のような気がしているのですけれども、大変なことをこれから進めていかなければいけない会議になるのかなあと思います。

もし、時間がよろしければもう少し意見を言っていたいただいてもよろしいでしょうか。

【事務局】

今お話をいただいた、アンケート結果についてはこういう状況で、国の基準に基づいたアンケートニーズ調査を基にプラスアルファをしていくのが現状です。委員の方々はそれぞれ保護者の代表者として、幼稚園なり保育園の関係者ということで、直接保護者と触れ合っている方たちが委員にも含まれておりますので、そういうところで、内部的な委員会などを開いた時にこういう意見もありますよということをお聞きした上で、この計画を策定していきたいと思っていますし、それに伴ってこの会議で諮った中でこういう方向性もいいのではないかとということで、考えていかなければいけないと思いますので、今私たちはこのアンケートはこういうことだと、結果を報告したままで、今後の検討は追ってしていかなくてもいけないと思っていますとここでありますので、またそれはみなさんでお話させていただきたいと思いますので、ご協力願いたいと思います。

【会 長】

4月以降の、会議の席上でまた色々な情報が出ると思いますので。では次にいってよろしいでしょうか。

【E委員】

ニーズ調査の対象者なのですけれども、保護者から伺っていたんですが、実際は子どもの名前で来まして、園に通っている子どもが2人いるのですけれども、二人分届いておかしいなと思ったのです。問い合わせたところ、当初は二人分返信してくださいということだったんですけども、数日したら一人分だけで、結局1通だけ返信したのですけれどもこの辺はどうでしょうか。

【事務局】

すみません、最終段階の時、世帯ごとで1人に絞って抜かなくてはいけなかったところを、2人に出してしまいました。兄弟がいる家庭については、兄弟複数分出してしまったのですが、後で園長先生の方にお話をさせていただいて、一家庭に兄弟がいて複数アンケートが届いている場合には1人分だけ出してくださいということで、通知を出させていただいて、被って出してしまったところには後で抜かさせていただきました。失礼しました。

【事務局】

最終的な数字としては、総体的なものは1,600人に変わりはないです。

【E委員】

回答数が多いので、問題はないのですけれども、今後このようなことがないようにしていただければと思います。

【事務局】

はい。

【会 長】

12月の時点で、家庭に2人子どもさんがいる場合には、ダブらないような調整をとということでしたのでその確認をとということです。問題は正常通数の中に、ダブりの数が入ってしまっているのかというような事だと思いますが、入っていないということでもよろしいですね。

【事務局】

大丈夫です。

【事務局】

資料4に基づき、市家庭児童相談室について説明。

【会 長】

資料と今のご説明について、ご意見ご質問ありましたらお願いいたします。

【B委員】

民生委員の方は地域を見守っているのが、現実のところですよ。民生委員の方は結構やってくれましてね、見守り型だと何も出来ないんだけど、何かあればということで、朝早く7時半ぐらい、学校に登校する時間帯の見回り等、地域の大事な任務として、こういうところに協力をしていきたいと思えます。

【会 長】

はい、ありがとうございます。他いかがでしょうか。

【C委員】

今日、2歳児未満が対象のごみ袋をいただきました。それより、無料の託児チケット1枚つけたほうが、絶対虐待を防げるような気がするんですよ。

ごみ袋を頂くのは、経済的には助かるのですが、例えば、保育室モモの1時間無料チケット1枚あげたら、1時間でもいいからこの子を預けたいというのが毎日あるから、そうやって、お母さん達の精神的な所を、ケアするような所を少しでいいのですけれど。無料でというのがポイントで、有料になるとどうしても専業主婦なので、肩身が狭いので、500円でもいけないんですよ。1回でもいいから、無料でお子さんを、どんな理由でもいいから預かりますよと言われてたら、本当に充実している人は使わないし、どこかに行きたいという人は使うんだろうなと思っていて。

お金の使い方を考慮してくれると、母親としては助かるなと思います。

【会 長】

具体的な提案があがりましたが、他、そのようなことがありましたら、いかがでしょうか。よろしいでしょうか。

転入者、転出者の中で、社会的には色々見えてきているのですが、その兼ね合いは何かありますでしょうか。

【事務局】

転入、転出に関しましては、ケース移管なり情報提供を必ずやっております。私たちの方も、転入の方について前の市町村から情報を受けて、必ず担当者に顔を合わせた上で、軽くても本人の意思で情報提供するかしないかを確認したうえでケース移管するか、本人が嫌だと言うのであれば、情報提供を相手の自治体に報告をしているというかたちですので、そこは児童相談所も含めて安曇野市ではしっかり対応していこうと思えます。

【会 長】

ありがとうございます。他、みなさんいかがですか。では、(4)その他については、ここまででよろしいでしょうか。ありがとうございました。

それでは、以上をもちまして本日すべての議事を終了とさせていただきます。すみません、議長の許可も得ないですね、実はここにいらしているFさんが小倉地区でやっている子どもの遊びの広場というのが、とても面白く展開しているものですから、最後のチラシのところだけ見ていただければよろしいかと思えます。

3月の初めに始めた、遊びの広場がお母さんたち、お父さんたち、地域のおじいちゃんおばあちゃん

たち含めての、活動に広がって地域おこしにも繋がるのではないのかな、というところでもとてもいいスタートが切れているのではないかと思うので、紹介出来たらなと思ってお持ちしました。また時間があるときにお読みいただければと思います。なにかあったら、お願いします。

【F委員】

アンケートでも、小学校3年生まで児童館を使いたいとか、放課後教室を使いたいかなどといった、アンケートがありましたけれどもその中でも居場所がないから、習い事をさせようというお母さんが多いと思うんです。

そうではなくて、兄弟ではなく、関係を作るのは子ども同士の遊びだと思ひまして、このような遊びの広場を私達で作らせていただきました。自分たちが住む、小倉地区は子どもの家が離れているものですから、なかなか、さあみんなで遊ぼうという感じにはならず、またバス通学をしているので、地区差を知らないで育ってきています。それに私はとても違和感がありまして、家の中にいないで、外に。今しか遊べないのだからと思って、仲間たちと声を掛け合って月に2回だけなんですけれども、子ども達みんなで集まって、好きな遊びをしようという会を作りました。子どもたちはとても楽しんでくれていて、地域のみなさんも子どもたちのためになるならば、とよく見に来てくださっています。とてもありがたいことだなあと、思ひて、地域のみなさん達に見守っていただきながら子育てをすることが出来て、今とても幸せです。こういった会を作りましたので、また興味ございましたら、是非見学にお越しください。

【会 長】

はい、ありがとうございます。配布をさせていただきました。なにかなければ、これでよろしいでしょうか。はい、ありがとうございます。それでは、以上を持ちまして本日すべての議事を終了とさせていただきます。

【副会長】

長時間にわたり、大変お疲れさまでございました。以上をもちまして、平成30年度第3回安曇野市子ども・子育て会議を終了させていただきます。お忙しい中、誠にありがとうございました。